http://decfamily.p1.bindsite.jp/2013NEW/

We 25R

No.341　14/03/24

個人面接を終えて

第４回目の個人面接が終わったので、その中で気になったことや、全体に向けて改めて伝えておきたいことをまとめておこう。

＊

今回の面接では、とりあえず来年度の選択科目を確認し、それにともなって、現在の進路志望（大学・学部）や、自分にとっての課題となる科目などについて、個々人の必要性に応じて話題にしてみた。

進路については、ほとんどの人が一定の方向を決めており、具体的な目標校も決めているようだが、まだ、学部・学科レベルとなると迷っている人もいるようだし、また、特に理系で、やりたいことは見えてきているのだが、それが実際に勉強できる大学はどこなのか、そのことを専攻できる学科や先生がちゃんと揃っているのか、といった点については、調べ切れていない人もいるようだ。３年生の「総合的な学習の時間」のレポートテーマは「学問研究」だから、それとリンクさせながら、実際に大学に訪問してみたりすることも大切だろう。

個々の課題については、さすがに２年生のこの時期だけあって、それぞれちゃんと意識できている印象である。あとは、それを実際の成果へと結びつけることだ。特に英語を苦手としている人にとっては、ハイレベルな日常の授業を受けながら不得意を克服しなければならないわけだから、たいへんな困難を伴うことはよく分かる。それでも最後まで諦めずに、ちょっとでも向上するように努力することが大切だ。入試は「得意科目で決まるのではなく、不得意科目で決まる」という意識を持つことと、今苦労して身につけていることが、大学での勉強にも必ずや結びつくのだという意識をもって努力してほしい。

＊

「今年を振り返ると？」という質問もしてみたが、勉強のことを話題にする人もいれば、部活のこと、家庭でのこと、個人的な人間関係のこと、クラスのことなど、それぞれ違った「振り返り」があって興味深かった。

その中でクラスのことについては、色々な人物評を聞くこともできたりしたが、担任として一番気になったのは、「自分たちは何もできないと思っている人が多い」という意見が複数の人から聞かれたことである。「自分たちには…と感じている人が多いから、何かやろうとしても積極的な方向に向かわない」という意見もあった。

３年になると勉強が中心になるし、勉強を自分の中心に置く人も当然のことながら出てくる。それは仕方ない。しかし、前期の行事を通して成長したクラス（賞が獲れたかどうかは関係ない）ほど、最終的な結果もよくなることは、10年間も日比谷にいればよく分かる。クラスのまとまりが勉強の雰囲気を創り上げ、それが苦しい受験期を乗り切る力となるのである。その意味では、やはり前期の行事は大切なのである。積極的に取り組む人をしっかりサポートし、みんなで何かを成し遂げることの大切さを見失わなず、常に向上を目指すクラスであってほしいものである。

＊

帰りのHRが無くなる分、朝のHRでの連絡が重要になる。先ずは遅刻しないことを肝に銘じて、４月のスタートに備えてほしい。